



Sophia University

「内容言語統合型授業(CLIL)による 専門教科と結び付けた教育」の取り組み

吉田研作

yosida-k@sophia.ac.jp

<http://pweb.sophia.ac.jp/1974ky>

CLIL・Importance of Emphasis on Content

小学校

児童への指導に当たっては、英語教育に関する専門性を前提としながらも、児童理解の観点、他教科等と連動した学習内容・活動を行う観点から、学級経営を基盤とした授業の実施等に対応できる指導者が求められる

中学校

他教科での学習内容、学校生活における活動、地域行事、生徒の体験等と関連付けることで、文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を構成することが可能になる

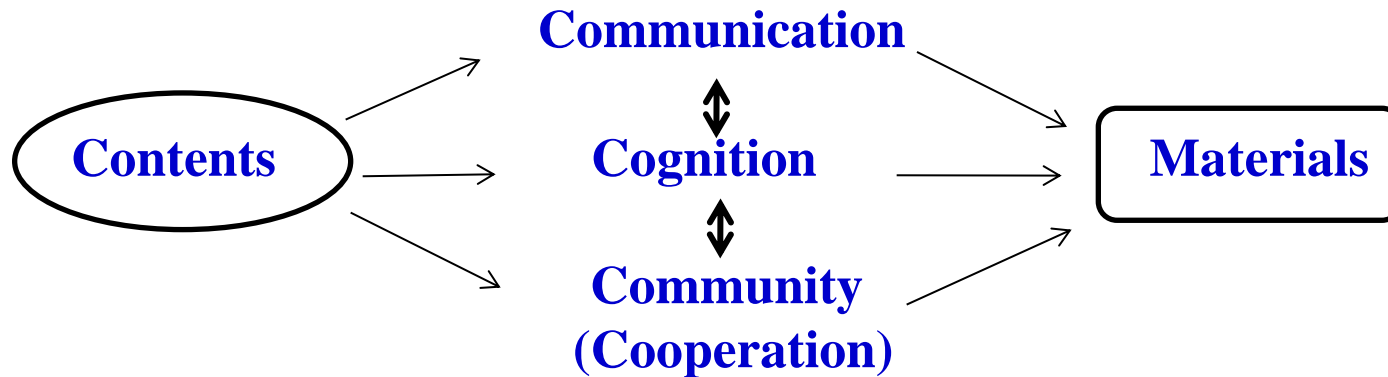
高等学校

高等学校では、中学校との円滑な接続を図りながら、国際社会の多様性に対応した目標・内容を設定し、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動の高度化を図ることが適当である。

今後の英語教育の改善・充実方策について(報告)～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～

4 C's

Authentic Materials Theme-based syllabus



Content

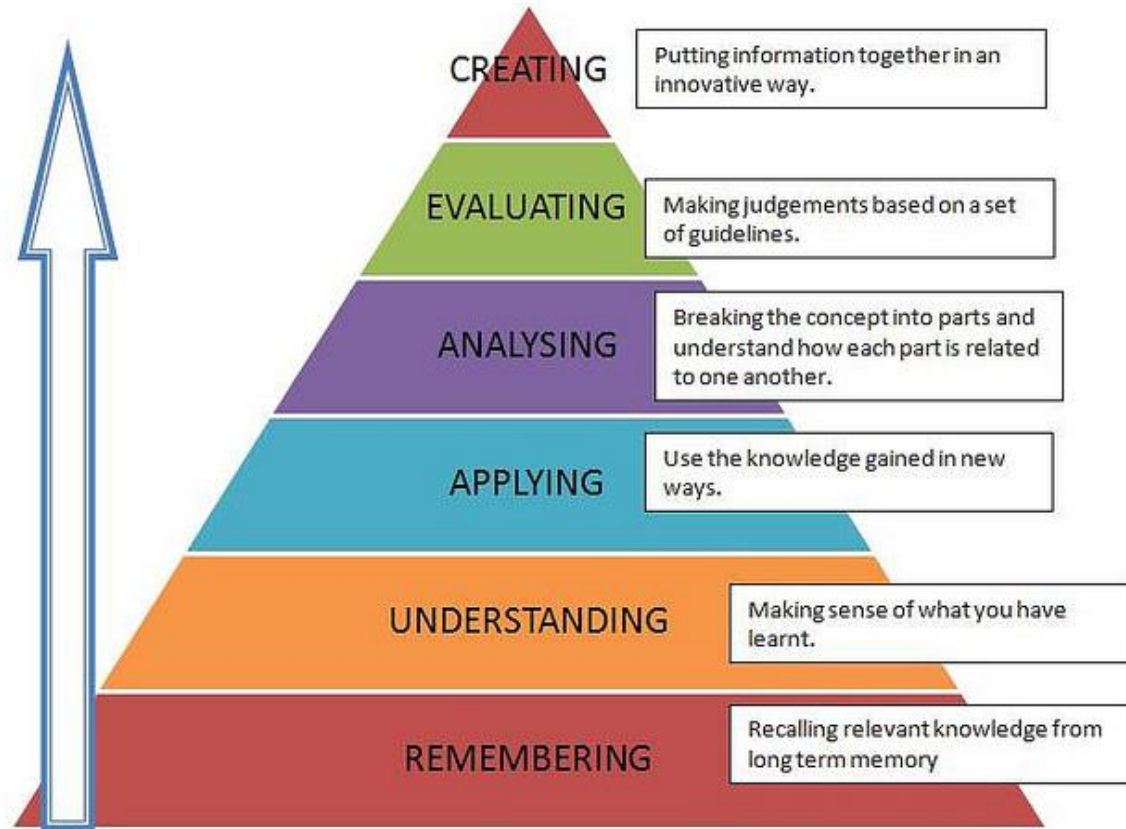
他教科(国際関係、歴史、文学、法律、理科、音楽、美術など)
学習者の経験や興味関心(修学旅行、学園祭、人権問題、環境問題、平和など)

Communication

Language of learning それぞれのテーマや単元特有の言語材料

Language for learning 個々の内容とは別に存在するより一般的な能力
(description、thinking、discussing、evaluating、concludingなど)

Cognition



(Anderson & Krathwohl, 2001)

Community

学習者が協働して内容と関連のある課題、プロジェクトを行うことを意味する。いわゆるアクティブ・ラーニング

Types of CLIL

Soft CLIL
(English teaching)

objective
←→

Hard CLIL
(content teaching)

Partial CLIL
(part of class)

proportion
←→

Total CLIL
(whole class)

Bilingual CLIL
(Jap-Eng)

language use
←→

Monolingual CLIL
(English only)

Light CLIL
(once in a while)

Frequency
←→

Heavy CLIL
(regular)

How to teach CLIL courses

Teacher talk

Visual and non-linguistic Aids

Promoting Students' Autonomy

Promoting pair/group work

Coping with students' errors

上智大学の一般英語カリキュラム

(1) 1年次：英語で学び考える academic bilingualism の習得

Academic Communication 1
(English for Academic Purpose)

Academic Communication 2
(Content & Language Integrated Learning)

文献の読み方
論文の書き方

議論の方法
調査の方法

知識の活用
批判的思考

共同学習
国際的視点

(2) 2～4年次：英語で専門性を高める specific bilingualism の習得

Academic English 科目

Professional English 科目

Practical English 科目

History Psychology
Economics Law

通訳英語
金融英語

報道英語
法廷英語

口頭発表 Eメール
会議 TOEIC

(3) 卒業後：英語で課題を達成する global English competence の活用

就 職

進 学

企画する 協働する
提案する 解決する

知識を磨く 調査をする
技能を磨く 実験をする

Language for
Learning

Language of
Learning

Language for
Living



Test of English for Academic Purposes (TEAP)

<http://www.eiken.or.jp/teap/>

「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を測る

TEAPは利用者の総合的な英語力を正確に測定するために、下記4技能のカテゴリーから構成しています。

Reading test : マークシートによる択一選択方式(時間:70分)

Listening test: マークシートによる択一選択方式(時間:約50分)

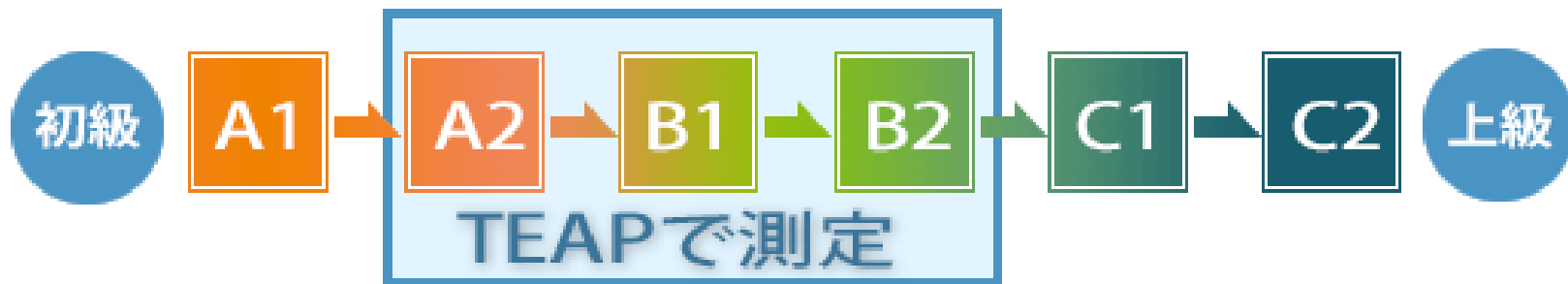
Writing test : 解答用紙への記入(時間:70分)

Speaking test : 1対1の面接方式(時間:約10分)

出題分野

TEAPで出題される問題は、大学教育で遭遇する語彙・場面・分野(英語で講義を受ける、英語の文献を読み解く、英語で発表を行うなど)を想定した設定・内容となっており、アカデミックな英語 — English for Academic Purposes — に特化しています。

測定範囲



テストスコアと連動した「TEAP Can-do statements」を受験者全員に提供します。これは大学レベルのアカデミックな場面での英語運用に特化したリストで、リストとテストスコアを参照することで現在の英語力で具体的にどのようなことができる[可能性が高い]かの目安がわかります。

TEAP CBT 5つの特徴

1 ICTを活用した問題の出題

ITをベースとした英語運用を想定し、英語での指示を解釈しながらコンピュータ上で操作を行い、**より高度な思考力・判断力・表現力を必要とする問題を出題。**

2 Speaking, Writingを、さらに実践的に！

Reading+Listening+Speaking、Reading+Listening+Writing といった、3技能を組み合わせた問題を複数出題。

Speakingは、30分間実施。大学での日常的な会話からアカデミックな要約問題までを、オンライン対面型で全8問出題。

Writingは、5問。統合型の問題を増やすことで、大学入学後に必要となる実践的なライティング能力を測定。

3 大学生がキャンパスで遭遇する状況に合わせたタスクベースの出題

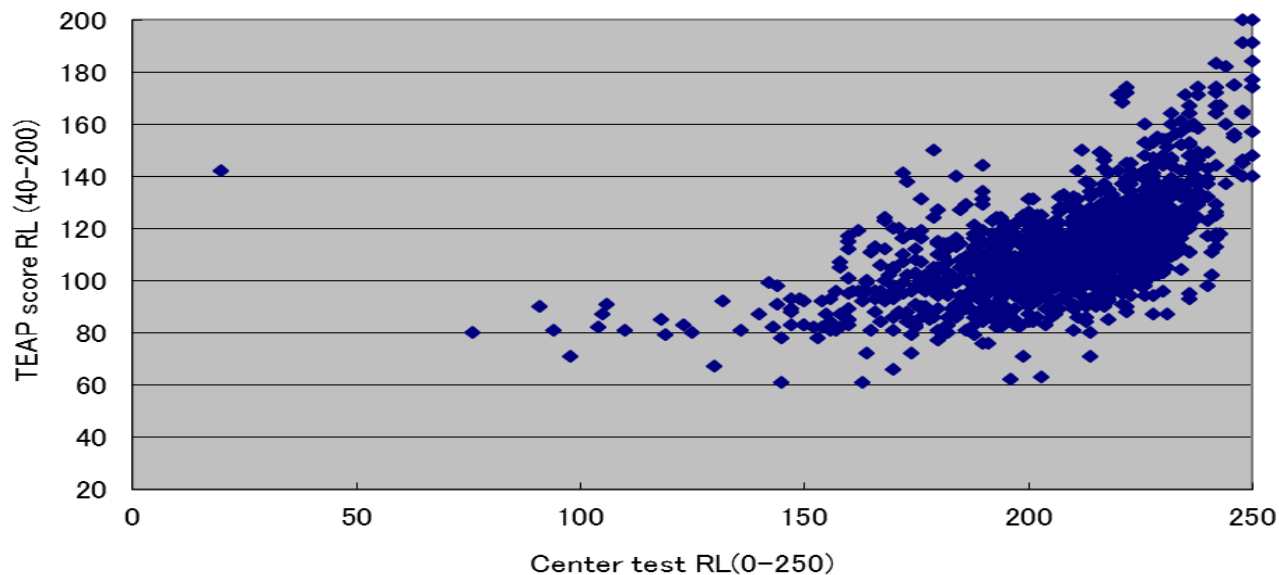
4 対面式のインタラクティブなスピーキングテストをオンラインで実施

5 各種スコアに対応した試験結果をお知らせ

試験結果通知では、4技能ごとの各セクションのTEPCBTスコア/CEFRバンド/CSE2.0スコアに加えTEAPの測定スコアも表示

Comparison between TEAP-Center Test scores

TEAP-Center test RL 2011 (N=1487, r=.59)

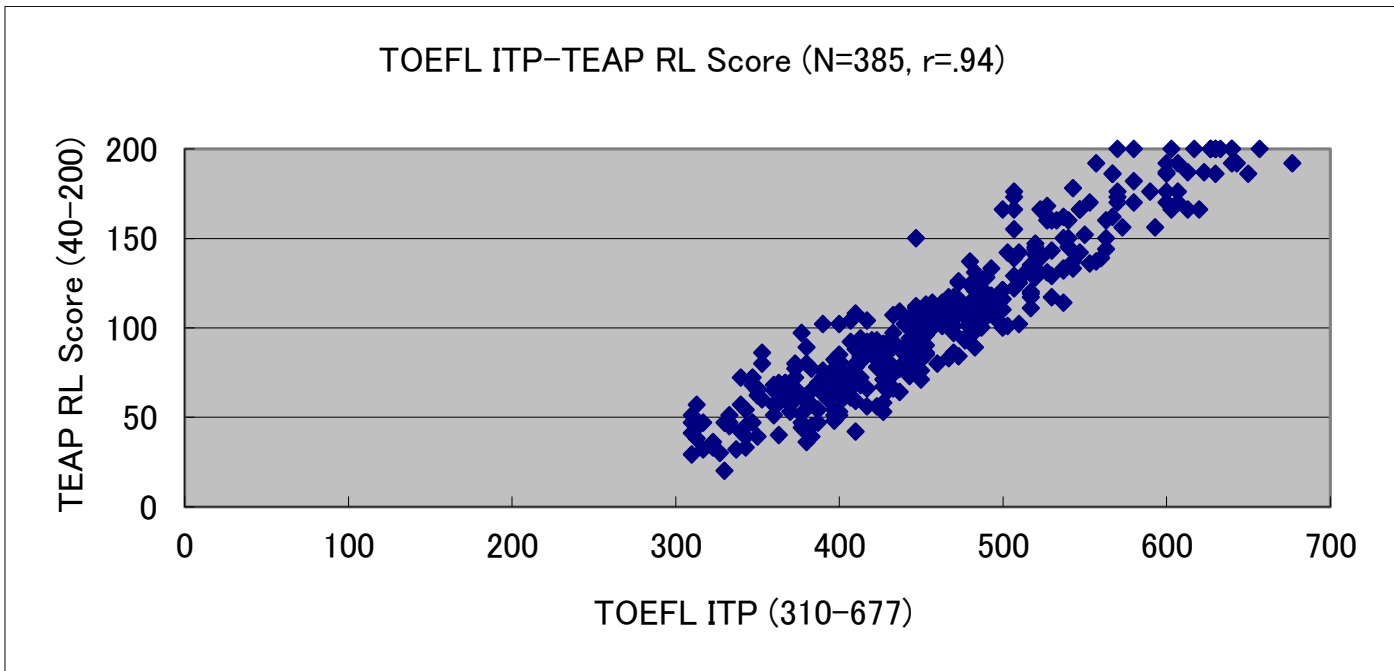


Center RL	TEAP RL
250	130
200	112
150	96
100	79
50	62
0	45

2014 Average score on the Center Test \div 150

	度数	最少値	最大値	平均	標準偏差
TEAP RL	1487	61	200	111.91	18.31
Center RL	1487	20	250	207.64	22.86

Comparison between TEAP-TOEFL ITP^(R) Scores

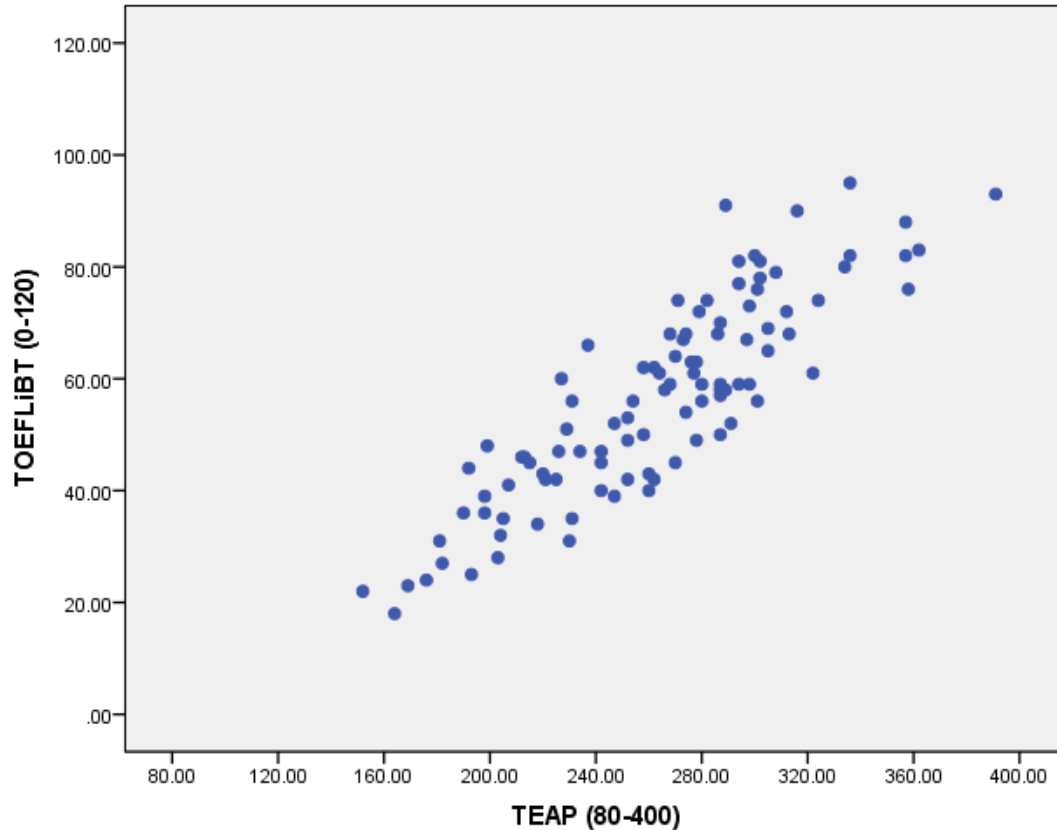


CEFR	TEAP RL total	TOEFL ITP total
C1	200	621
	190	604
B2	180	587
	170	570
	160	553
B1	150	536
	140	519
	130	502
	120	485
	110	468
	100	451

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
TEAP RL	385	20	200	102.32	42.9
TOEFL ITP	385	310	677	455.68	79.24

Comparison between TEAP-TOEFL iBT^(R) Scores

TEAP-TOEFL iBT Score (N= 100, r=.874)



EIKEN Grade	CEFR	TOEFL [®] score		TEAP
		PBT	iBT	
1	C1	600	100	396
Pre-1	B2	550	80	334
2A	B1+	500	61	276
2	B1	450	45	226
Pre-2	A2	400	32	186

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
TEAP	100	152	391	263.1	48.15
TOEFLiBT	100	18	95	56.46	17.87

大学入試から大学卒業まで

大学入試

TEAP

Placement test としての利用



大学教育による英語力進展尺度

AC+CLIL 中心の授業展開

TEAP

一般英語単位認定基準

英語必修科目のレベルアップ条件として

国際教養学部受講資格

理工学部英語コース開講科目受講条件

卒業後

留学

IELTS/TOEFL/英検

仕事・一般

TOEIC/BULATS/英検

References

Anderson, L. W. and David R. Krathwohl, D. R., et al. (Eds.) A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives. Allyn & Bacon. Boston, MA, 2001

池田、渡部、和泉(共編、2016)『CLIL内容言語統合型学習:上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第3巻 授業と教材』上智大学出版

TEAP <http://www.eiken.or.jp/teap/>

文部科学省(2016) 高大接続システム部会最終報告書

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf

文部科学省(2014) 今後の英語教育の改善・充実方策について報告～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言～ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm

文部科学省(2016) 外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377057_1_1.pdf

渡部、池田、和泉(編著、2011)『CLIL内容言語統合型学習:上智大学外国語教育の新たなる挑戦、第1(原理と方法)』。上智大学出版

渡部、池田、和泉(編著、2012)『CLIL内容言語統合型学習:上智大学外国語教育の新たなる挑戦、第2巻(実践と応用)』。上智大学出版

全国検定振興会(2016) 民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜における活用実態に関する調査研究事業結果報告書